

(案)
平成30年度の取組み

北九州市立美術館

平成30年度の事業展開

平成30年度は、美術館本館のリニューアル・オープンを契機に定めた『北九州市立美術館運営5カ年計画』に沿って、以下の事業を展開する。

特に、新・美術鑑賞事業「ミュージアム・ツアー」の本格実施、ボランティアの募集・再開、コレクション展における「guest room 第3回展」などに重点的に取り組む。

1 作品 ～資料収集・環境管理・保存～**(1) 収集活動の継続**

開館以来の収集方針や所蔵内容を踏襲しながら、持続可能な収集活動を目指す。収集対象は、下記の分野に重点を置く。

- 現代の多様性を示す優れた作品
- 地域の美術史を構築する上で欠かせない作品
- 近現代美術史の展開をたどる既存コレクションの充実・補完

<平成30年度の取組み>

- ① 既存コレクションを充実・補完するための作品・関連資料を収集する。
- ② 平成30年度の自主企画展にあわせて、青柳喜兵衛に関連する作品・関連資料を収集する。

(2) 作品修復、作品保管環境の整備

所蔵作品・資料の管理に必要な保管環境を整備し、必要に応じて作品修復を行う。

<平成30年度の取組み>

- ① 青柳喜兵衛の作品など、緊急性の高い作品から順次修復を行う。
- ② 日常的に収蔵庫内の点検・清掃を行い、作品と保管環境の安全を確認する。

(3) 美術資料・図書の一括管理

当館所蔵の作品及び図書データベースを整備し、開館 50 周年となる 2024 年の一般公開を目指す。

<平成 30 年度の取組み>

- ① 作品データベースの資料作成、精査を行う。
- ② 図書データベースの資料作成、精査を行う。

2 公開 ～調査研究・展覧会～

(1) 新鋭作家の継続的な紹介と評価

企画展や guest room を通じ、新収蔵や研究発表を見据えた新鋭作家の調査を行う。

<平成 30 年度の取組み>

- ① guest room 第 3 回展、石川直樹展を開催する。

(2) 所蔵作家のアーカイヴ整備、研究論文・口頭発表

所蔵作家に関するアーカイヴの整備、研究論文、口頭発表等を行う。

<平成 30 年度の取組み>

- ① 森山安英、青柳喜兵衛の自主企画展にあたり、論文公開や口頭発表を行う。

(3) 特色ある展覧会（コレクション展・自主企画展）の実現

調査研究に基づいたテーマ性の豊かなコレクション展や自主企画展を開催する。

<平成 30 年度の取組み>

- ① テーマの異なる 3 つのコレクション展を開催する。
- ② 森山安英、青柳喜兵衛を紹介する自主企画展を開催する。

(4) 他館や他機関と共同企画の実施

他館、他機関と協同し、連携企画展や共同調査を行う。

<平成 30 年度の取組み>

- ① ムナーリ展、1968 年展、ルオー展において、他館との連携企画を開催する。

3 交流 ～教育普及・地域交流～

(1) 学校と連携した学習プログラムの実施

教育現場や教育委員会と連携し、小中学生等が美術に触れ、楽しむ機会を広げる事業を実施する。

<平成30年度の取組み>

- ① 市内の全市立小学校3年生を対象に「ミュージアム・ツアー」を実施する。
- ② 学校が行う鑑賞教室や館内授業について支援を行う。

(2) 特色あるワークショップ・講演会の実現

子どもから大人まで幅広い年齢層を対象にしたワークショップ、講演会、ギャラリートーク等を実施する。

また、複数年にわたり継続した市民参加型のアート・プロジェクトを実施する。

<平成30年度の取組み>

- ① ムナリー展と連動したワークショップを行う。
- ② 各展覧会で講演会やギャラリートークを行う。
- ③ 長期ワークショップ「ぬいかけのけいかくしつ」を実施する。

(3) ボランティア組織の運営

現代の社会状況に対応した、独自の自立型のボランティア制度を構築する。

<平成30年度の取組み>

- ① 新たな体制でボランティアを募集し、養成講座を実施してボランティア活動を再開する。

(4) 他館や他機関との連携

他館や他機関との連携を促進し、同時に連携の内容を工夫する。

<平成30年度の取組み>

- ① 北九州芸術劇場と連携して、分館で開催する石川直樹展に関連したダンス公演や本館エントランスホールにおいて演劇公演を行う。

4 広報 ～利用促進のための情報発信～

(1) 現代社会に対応したマーケティング、広報戦略

展覧会等の傾向や予想される観客層などを分析し、SNS等も活用した効果的な広報活動を行う。

また、外国人向けの広報も充実させる。

<平成30年度の実施計画>

- ① 展覧会のアンケート方法の見直しを行う。(回収方法等)
- ② 各企画展において、ツイッターまたはフェイスブックを開設する。
- ③ 英語版HPを作成する。

(2) 他館や他機関との連携

来館促進のための連携先の確保と、連携の内容を工夫する。

また、美術館友の会の活用を図る。

<平成30年度の実施計画>

- ① 他館と連携した割引特典等の企画を実施する。
- ② 美術館友の会会報誌による展覧会情報等の発信に努める。

5 環境 ～快適なアメニティ空間の演出～

(1) ミュージアム機能・設備の強化

美術館内外の環境について、館の安全確保と適正管理に努める。

また、ホスピタリティマインドの向上に努め、市民に開かれた美術館を目指す。

加えて、老朽化が進んでいるアネックス棟の整備計画の検討を行う。

<平成30年度の実施計画>

- ① 警備、清掃、受付・監視等の十分な体制づくりに努める。
- ② アネックス棟の防水工事や設備等の不具合について、修繕計画を立て実施する。
- ③ 美術館友の会と連携してミュージアムショップの充実に努める。